

山口・高知両県知事会議 議事録

- 日 時 : 平成27年9月4日(金) 12:20～13:00
■参加者 : 山口県知事 村岡 嗣政
高知県知事 尾崎 正直

I 開会

(司会：上野部長)

ただいまから「山口・高知両県知事会議」を開会いたします。

まず、始めに、開催県であります山口県の村岡知事から、ご挨拶申し上げます。

II 両県知事挨拶

(村岡知事)

山口県知事の村岡でございます。

尾崎知事さんをはじめ高知県の皆様方におかれましては、山口にお越しくさいますて本当にありがとうございます。

こうして、2県の知事会議ができますことを大変うれしく思っております。

尾崎知事とは、将来世代応援知事同盟でもご一緒させていただいておりますし、先日は「平成の薩長土肥連合」ということで観光キャンペーンを一緒にやっていたということで、様々な取組を連携してやらせていただいているところであります。

私自身も高知県に2年間赴任をしておりました。その時、尾崎知事の下で働いたこともありまして、大変高知県は思い出のある地域でもあります。

そういう意味で、高知県、山口県の間で、こうして2県知事会議が開催でき、様々な連携をこれから実現していきたいと思っております。

今、話のありましたように観光面ですとか、様々な連携できることもありますし、また、災害対応ということで連携を始めているところもございます。是非こうしたところも、これからさらに連携を図っていききたいと思います。

その他にも地方創生に係る様々な共通の課題もありますので、是非とも、良く意見交換をしながら、さらなる連携を深めていきたいと思っておりますので、今日はよろしく申し上げます。

(司会：上野部長)

続きまして、尾崎高知県知事様よりご挨拶をお願いいたします。

(尾崎知事)

皆様、こんにちは。

今日は、村岡知事様を始め、山口県の皆様方に大変ご厚意をいただきまして、山口・高知の知事会議を開催していただきますことを、心から御礼を申し上げます。ありがとうございます。

先程、村岡知事さんからもお話しいただきましたが、高知と山口との間には、本当にいろいろな繋がりががあります。村岡知事には、高知県庁におられた際に、新任の知事として大変お世話になりましたし、総務省にお帰りになられてからも高知県の関係でお世話になりましたし、さらに、今もいろいろな形で、例えば防災関係のカウンターパートを結ばせていただいている関係や、若手の知事同盟でもご一緒させていただくなど、ご縁があるわけです。さらに翻って言えば、「薩長土肥」の歴史的な盟約関係もある。現代において、そしてこれからの未来に向けて、様々な形の取組を共に進めていくにあたって、この高知と山口との関係を活かさせていただければと思う次第であります。早速、今日、観光関係と防災関係の議題があります。具体的な協力関係を是非共に発展させていければと思うわけであります。

お声掛けをいただき、こういう素晴らしい機会を設けていただきました村岡知事に心から感謝申し上げますし、また、事務方の皆様にも感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(司会：上野部長)

ありがとうございました。

それでは、意見交換に入らせていただきたいと存じます。

本日の意見交換は、12時50分までとさせていただきます、その後、共同記者会見の予定としております。

それでは、これ以降の進行につきましては、村岡知事、よろしく願いいたします。

Ⅲ 意見交換

(村岡知事)

では、意見交換に入らせていただきと思いますが、その前に、この席の「席札」について説明させていただきます。これは実は「竹」で出来ております。山口県は竹林面積が全国第4位で、かなり竹が生産される場所です。これはモウソウ竹というもので作っておりますが、製造している会社は、全国唯一の「曲げ加工技術」を持っており、家具やインテリア製品を作られているところです。ミラノの国際博覧会でも竹の製品を展示させていただきました。

また、竹に関して申しますと、先日は竹を主な燃料とする世界初となるバイオマス発電所を、小野田に誘致をすることができました。ウォール・ストリート・ジャーナルにも掲載されましたが、もともとは徳島にあった藤崎電機という会社でしたが、出身が山口の方ということで、我々が一生懸命10年ぐらいかけて「是非、山口に」とお願いしていたことが実現しまして、県内の山陽小野田市で竹のバイオマス発電所を世界で初めて作ることとなったということでございます。竹という資源を活かした取組をご紹介させていただきました。

こちらの席札については、本日の会議の記念としてお持ち帰りいただければと思います。

1 明治150年に向けての両県の連携について

(村岡知事)

それでは、早速議題に入らせていただきます。

最初に、「明治150年に向けての両県の連携」について、意見交換をさせていただきたいと思います。まず、私の方から発言をさせていただきます。

先程からお話しのありましたとおり、3年後ですね、平成30年、2018年が、明治改元から150年となる大きな節目の年になるわけであります。これは県単独でも「やまぐち幕末ISHIN祭」というキャンペーンを打って、明治150年に向けて観光をもっと県、市町、関係団体が一丸となって盛り上げていこうということをはめているところです。今年、大河ドラマをやっておりますので、第1章ということで、来年度から平成30年までを第2章と区切ってやっていますが、これを「薩長土肥」の4県の連携した取組と絡み合わせながらやっていきたいと思っています。

私はこうした取組を全国に広げていきたいと思っております。夏に安倍総理が帰って来られた折にも、150年に向けた取組を政府としても応援していただきたいということを申し上げました。1968年、その時は明治100年ですけれども、佐藤栄作内閣の時に、国として記念式典や、いろいろな記念行事を開催したり、記念の博物館を作ったりとかですね。山口県でも国の補助をいただいて維新の記念公園を整備したりなど、様々な取組がありました。これを是非150年に向けても、政府としても、式典なり、キャンペーンなりを打っていただきたいという話をお願いしたところであります。

これからオリンピック、パラリンピックも2020年に控えております。その2年前に明治150年ということでもありますので、海外に対しても、しっかりと明治維新というものをアピールする大きなチャンスであると思っておりますし、また、オリンピック、パラリンピックの弾みがつくものにもなるのではないかと考えておりますので、明治に関係の深い両県が全国を先導してこの150年に向けて盛り上がりを作っていくことが重要だと思っています。共に盛り上げていきたいと思いま

すのでよろしくお願ひします。

それから、観光の関係で言いますと、先程申しました「幕末ISHIN祭」ですね。まさに歴史を中心としながら、「自然」とか、「食」とか、「温泉」とか様々な山口の魅力を拵げていこう、盛り上げていこうと観光キャンペーンをやっています。また、今年には松下村塾をはじめ、萩で5つの資産が世界遺産に登録されたということでもありますので、そういったことをきっかけにしながら、多くの方に来てもらえるように受け入れ態勢の整備も行っているところであります。

そうした中で、今週の月曜日に、山口県、高知県、そして鹿児島県、佐賀県の4県で「平成の薩長土肥連合」を立ち上げさせていただいたところです。これも、これまでの広域連携と違ってテーマ・ストーリーを持った広域連携ということで新しい取組であると思っております。先日は4県一緒に観光庁や内閣府の方にも行かせていただきましたけれども、是非これを、全国の注目を集める取組としていきたいと思っておりますので、それに向けていくつか提案をさせていただきます。

1つは先程申しました「やまぐち幕末ISHIN祭」の取組の一環として、各施設で特典を受けながらスタンプを集めるスタンプラリー、「おいでませパスポート」を発行して、ステージアップしていくしくみを作っておりますが、高知県でも「龍馬パスポート」を発行されていると伺っておりますので、こうした類似の制度を活用しながら、4県を跨ぐスタンプラリーなどを実施できないかと思っております。それから、明治維新をテーマとした首都圏等での情報発信のイベントの共同開催ですとか、相互に送客体制をつくっていく取組、旅行商品の造成を共同でやっていくなど、様々な取組で連携が可能だと思っております。是非、一緒に頑張っていきたいと思ひます。

もう1点、クルーズの関係ですけれども、この四国、九州、そして山口に跨る薩長土肥連合でございますので、なかなか陸路で結ぶのは難しいというのがあります。今クルーズが増えてきておまして、山口県でも萩の方にも港があります。去年は3回ぐらいしか来ていなかったのが、今年は大河や世界遺産の影響もあってか8回ということで大変増えてきているところであります。山口県は、新山口駅など新幹線が瀬戸内に通っていますし、空港も山口宇部空港と岩国錦帯橋空港がありますが、いずれも瀬戸内の方であります。多くの観光資源は萩の方にあり、そこを繋ぐというのがいつも課題になっておりますが、クルーズというのは、それを解決してくれるといいですか、直接萩に着くということで。薩長土肥連合で言いますと4県ともそれぞれ港が整備されているということでありますので、クルーズの誘致を訴えていって、商品の造成ですとか、誘致などを実現できるのではないかと思っております。是非、「明治維新150年記念クルーズ」の広域的な周遊ルートの形成を促して、船会社等への誘致を展開していってはどうかと思ひますのでどうぞよろしくお願ひします。私からの提案は以上です。

(尾崎知事)

どうもありがとうございます。

まず、この素晴らしい竹のプレートをありがとうございます。知事室に飾って大事にしたいと思います。これを見るたびに村岡知事を思い出して、仕事をさせていただきたいと思います。

また、もう一つ、世界遺産に山口県内の様々な施設が登録されましたことについて、心からお喜びを申し上げます。本当におめでとうございます。山口の地方創生、観光振興にいろんな形で貢献するトピック、イベントではないかと思えます。

また、大河ドラマに合わせて「やまぐち幕末ISHIN祭」など、積極的に展開して観光振興を図っておられることにも心から敬意を表したいと思えます。

そうした中、「平成の薩長土肥連合」を村岡知事さんのリーダーシップの下に声をかけていただいて、4県でこの連合を組ませていただいたことは、高知にとっても本当にありがたいことだと思っております。

先日ある旅行会社とお話しさせていただいた時に「今度、平成の薩長土肥連合というのを組むんですよ」と申しあげました。非常にストーリー性があるということで、一言でいうと食いつきが良かったです。「こういう形でのディステーションというのは面白いですね。今まであまりありませんね」というお話でした。

私からもPRしたのですが、平成30年に向けて、段々とステージアップしていくようにイベントが続いていく訳です。来年が薩長同盟150年、そして再来年が大政奉還150年、そして平成30年がいよいよ明治維新150年という形で、いろいろなイベントが起きてくることとなります。この3年間から4年間かけて継続的に4県で連携して様々な取組を進めていくことで、一過性に終わらず、かつ4県共同の発信力を持つ取組になっていくと思えますので、それぞれの県の観光振興全般のレベルアップに非常に有意義なことだと思えます。是非、この機会を活かさせていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

そういう中で本県単独としても、今後、大政奉還150年、明治維新150年に向けて、新しい観光誘客のためのしくみを講じていくこととしております。

まず、平成29年3月には「高知城歴史博物館」がオープンとなります。この施設では、いわゆる土佐藩を中心として、明治維新、さらには自由民権の時代に至るまでの間の様々な歴史資源を一覧で見ただけです。高知は多くの歴史上の貴重な資料が残っておりますが、残念ながらこれを一覧していただくところが十分になかったため、高知城の傍に、この施設を開館させ、多くの皆さんに歴史観光にお越しさせていただきたいと思っております。

そして平成30年の1月には「坂本龍馬記念館」の新館がオープンとなります。こちらは博物館仕様の本格的な記念館で、龍馬の真筆などの貴重な資料を展示できるようになると考えております。

この2つの施設を核といたしまして、本県も平成29、30年に向けて、いわゆる歴史観光を中心としたキャンペーンを打っていきたいと考えているところであり、それに向けて山口県との連携、薩長土肥連合を大いに活かさせていただきたいと思

います。

ご提案のありましたスタンプラリーなど、是非、実現させていただきたいと思えますし、4県共同での売り込みの取組も是非一緒にやらせていただきたいと思います。また、何と言いましてもクルーズについて、先程のお話にもありましたが、地理的に、隣接していない4県をうまく結んでいく手段として、かつ、ロマンティックな手段として、クルーズ船というのは非常に有効だと思いますので、誘致に向けての取組についても連携してまいりたいと思えます。

これに関連して、重複する点もございりますが、本県からも4点提案させていただきます。

まず、1点目でありますけれども、この薩長土肥連合を機に、様々な地方創生関連、観光に留まらずいろいろな連携ができればと思っており、そういう意味において「薩長土肥4県知事サミット」を共同で開催させていただければと思えます。「歴史」や「食」などをテーマにして、サミットと併せて共同のPRイベントも実施できればと考えています。

2点目ではありますが、様々なPR活動の展開ができればと思っており、是非マスコミの皆様にもご協力いただいて、薩長土肥を特集する形でテレビなどで取り上げていただき、ドラマ化や企画番組などを実現できるように4県共同でPR活動を展開させていただければと考えております。

そして3点目ですが、こちらは山口県さんのご提案とも重複しますけれども、4県知事で揃って、旅行エージェンツの皆様に対して、旅行商品説明会を開催できればと思っています。なかなか4県知事が揃って説明会をすることはないのでないかと思えますので、薩長土肥連合全般を旅行商品としてPRする機会を作っていければと思っております。

4点目ではありますが、盟約の締結からあまり日を置かずに、PRイベントを実施していくことも有意義ではなかろうかと思えます。11月に京都で「大龍馬恋」というイベントがございします。この時に各県のよさこいが集結しての踊りの披露や、各県の祭りを活用したPRを行うことなどによって、平成の薩長土肥連合を結び、具体的に活動を始めたことを、世の中の皆さんにできるだけ早い段階でお見せできるのではないかとと思っております。

こういう形で4県連携して、それぞれ実のある取組を進めていくことで、継続的かつ発信力のある観光振興を、是非、進めさせていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

(村岡知事)

ありがとうございます。

高知県におかれては、高知城の歴史博物館が新設オープンし、また、坂本龍馬記念館のリニューアルオープンということで、歴史ファンの方が喜ばれるような施設ができ、素晴らしいなと思えます。

山口県の中でも龍馬というのは、非常にブランドでありますから、山口県の中でも、山口、萩、下関の方で、龍馬ゆかりの場所というのは多くありますから、そういった意味で、両県をつなげる展開ができれば、なお相乗効果となって良いのかなと思った次第であります。

今、ご提案のありましたサミットですとか、あるいは4県知事による旅行商品の説明会ですとか、先日の盟約締結式でもそうでしたが、やはり、4県知事が集まっているというのは、マスコミに対してもアピールできる取組であると思いますし、そのトップが揃って行動するということが取組の効果を上げていく上で大変重要だと、効果があると私も肌で感じましたので、是非とも、サミットなり説明会も4県のトップが前に出る形でできれば良いなと思っているところでございます。

それからドラマとか番組での紹介というのは、まさに今、大河ドラマが放送されており大変観光客が増えているところであります。やはりテレビ、メディアの影響というのは大きいと思います。高知でも大河ドラマ、「龍馬伝」とかですね、私がいたときは「利家とまつ」がありまして、やはり効果が大きいものがあったと思います。メディアの皆様方、マスコミの皆様方に、是非とも取り上げていただきたいと思いますし、我々もしっかりと発信をしていかなければいけないと思っておりますので、これも連携をさせていただきたいと思っております。

また、目を置かずしていろいろなイベントをしなくてはいけないというの、おっしゃるとおりだと思います。「大龍馬恋」での取組、我々も連携をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、様々な取組、クルーズも含め、しっかりと連携をした取組をこれから4県で手を携えて、力強く進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、観光の関係のテーマはこれまでとさせていただきます。

2 南海トラフ地震等の広域災害への対応について

(村岡知事)

次に南海トラフ地震等への広域災害への対応についてであります。こちらにつきまして尾崎知事の方からよろしくお願ひしたいと思ひます。

(尾崎知事)

南海トラフ地震対策は、皆様ご存じの様に大変甚大なる被害をもたらす災害であります。最悪の場合、高知県の津波想定は最高3.4m、内閣府のモデルも使って試算をさせていただきますと高知県単県だけで、42,000人もの死者が発生してしまうことが想定されています。これは東日本大震災で亡くなられた、あるいは行方不明になられた方の2倍以上の数であり、これが高知だけで発生してしまうのではないかという予想もされているところであります。

そういう状況の中で、なんとか県民の皆様の命を守らなければならないという思いで、避難路・避難場所、さらには避難タワーを作るなど、いろいろな形での津波避難対策を進め、さらには応急期の対策につきましても総合防災拠点の整備、さらには道路啓開計画の策定、医療救護計画の策定などを通じて全力で取組を進めてきているところであります。

取組を進めていく中で、やはり超広域災害の場合には、いわゆる単県だけで対応できないことが非常に多く、四国の枠組み、中四国の枠組み、さらには全国的な枠組みの中で、外部からの支援をお願いしなければならないことが非常に多いことがわかってくるわけであります。

例えば災害時医療救護は、残念ながら、発生すると予想される負傷者の方の数に対して、生き残るであろうと考えられる医療資源は圧倒的に足りません。さらには避難路・避難場所を作り、命が助かった後の避難所での生活をしっかりと命を守る形で繋げていくためにも、外部から食糧や、色んな資材などの様々な援助を賜ることが非常に重要になってくる。さらにはがれきの撤去など、様々な物理的な対応をしていくためにも外部からの支援は重要であります。この点について、本県は中四国の枠組みの中で、山口県、島根県とカウンターパートの協定を結ばせていただいているところであり、これまでの間も、色んな形で山口の皆さん、島根の皆さんと連携しての取組を進めさせていただいて参りました。本当に心強い限りだと思っております。今後とも、この3県で連携を深めさせていただいて、特に南海トラフ地震の時には、本県は一方的に助けていただくことになる立場だと思っておりますので、いざという時には是非よろしくお願い申し上げます。

そしていざという時のためにも、是非、両県の間で、例えば防災訓練の機会などに相互にスタッフを派遣し合って日頃からの関係構築をお願いできればと思っております。またどうぞよろしくお願い申し上げます。

(村岡知事)

南海トラフ地震は、今後30年で発生が70%ということで、切迫感が非常に高まっていますし、その中でもやはり高知県というのは被害が大変甚大なところだと想定されていますので、本当に大変な取組をされていると思います。頭が下がるところであります。我々も今、昨年度ですね、南海トラフの計画を作りまして、今年3月には瀬戸内の沿岸の全15市町で、イエローゾーン指定して、全国で2番目にさせてもらったところであります。対応に対して万全の取組をしていかなければいけないと思っているところでありますけども、今、尾崎知事の言われたように、一県ではできないということが相当ございますので、やはり広域で連携をするということが重要であろうと思います。そういう意味で、中国四国の9県で災害時の広域協定を結んでおりますし、その中でカウンターパート制、今、尾崎知事の言われた取組を始めているところであります。山口県は高知県、島根県3県でカウンターパートを結んでいるところでありますし、単に結んでいるというだけではなくて、相

互の連携を深めるために、今年度は課長レベルの連携会議を山口県で5月に開催させていただいたところであります。そういった平時からの関係をしっかり作っていくということがこれから重要であろうと思います。

また、高知県と山口県では今年後から、防災部局間での人事交流をさせてもらっているところでありますので、そういった連携をしっかりと平時からやっていきたいと思っているところであります。今、お話にありましたカウンターパートの支援の実効性、これを高めていくために、各県が実施する防災訓練に連絡員を派遣したりなど、そういったカウンターパートの支援訓練を組み入れるといったことも考えられると思いますので、そういったことを、是非、実施をして連携協力関係をさらに強化していきたいと、私どもとしても思っておりますので、どうかよろしくお願ひします。

(尾崎知事)

どうもありがとうございます。本当に日頃から連携関係を実のある形でしっかりと強固にしていくことが、いざ災害の時に実効性のある協力関係に繋がっていくと考えます。是非、今後、各県が行う訓練にカウンターパート制を組み込む、さらにリエゾンとして訓練への相互参加を行う、さらに言えば、災害医療活動の面でも連携をした取組の推進を図るなどの形で協力をお願いしたいと考えているところでございます。どうぞよろしくお願ひ致します。

(村岡知事)

我々としても、災害の時の対応をしっかりと万全にしていくことが重要だと思ひますし、そういう意味でこういった両県、3県そして中四国の関係県で連携していく体制を整えていきたいと思ひます。こういった広域支援体制を、さらに強化していく。我々としてもカウンターパートとして、高知県で災害があったときには全力で対応させていただきたいと思ひます。また高知県におかれましては、大変災害への取組、防災、それから起こったときの対応への取組が大変進んでいるところだと思っておりますので、こうした人事交流を通じて我々もぜひノウハウを教へていただきたいと思っておりますので、引き続き連携できますようにどうかよろしくお願ひ致します。

それでは、大変短い時間になりましたけども、そろそろ時間も参ったようでありますので、高知県と山口県との間での知事会議の意見交換を以上で終了させていただきたいと思ひます。

(尾崎知事)

ありがとうございました。

(司会：上野部長)

以上を持ちまして、山口・高知両県知事会議を閉会させていただきます。

IV 記者会見

(司会：上野部長)

引き続きまして、この場で記者の方からのご質問をお受けしたいと思えます。準備が整うまでしばらくお待ちいただくようお願い致します。

それでは記者会意見を行いたいと思えます。では質問される記者の方は、恐縮ですけれども、挙手の上、社名とお名前を言っていただくようお願いをいたします。

それではそちらの方。

(中国新聞：村田記者)

中国新聞の村田と言います。両県の知事にお尋ねします。まず尾崎知事にはですね、南海トラフの関係で支援の要請があったと思えますが、少し具体的に実際の災害が起きた時に、避難所の話もありましたが、山口県に対してどういう支援を期待されているのかについて、もう少し具体的にいただけないかと思えます。

(尾崎知事)

発災直後の命を守るための対策というのは、やはり自県でできる限り頑張らないといけないと思えます。本県も避難路・避難場所1, 445か所、津波避難タワー115か所を計画し、整備しています。しかし、避難タワーに逃げて助かった後、次は避難所での生活が始まってきます。その段階で、やらなければならないことが様々に出てくると思えます。例えば、食料をしっかりと確保していく、水を確保していく。さらには医療救護のためのしっかりとした体制を敷いていくなど、いろいろなことをしていかなければならないのですが、災害時においてこういった体制をしっかりと敷くことは、なかなか難しいと思えます。

また、最悪の場合、本県だけでも避難者が40万人を超え、傷害を負われる方も3万6千人ぐらいに至ると想定されており、需要は膨大なものになってしまいます。そのため、他県からいろいろ避難者の生活を支えていただくための、例えば食料の供給や、さらにはマンパワーの供給などといった形で助けていただくことが重要になってこようかと思えますし、さらに災害時医療をバックアップしていただくことなどの助けが必要になってくると思えます。特に応急期において、瞬間的に増大す

る需要に対する対応ができるような供給面でのバックアップなどをお願いしていかなければならないと考えているところでございます。

(中国新聞：村田記者)

村岡知事にはですね、南海トラフが起きれば、当然山口県内に被災というの也被災される中で、どこまで高知県に対して支援ができるかという点についてはどのようにお考えでしょうか。

(村岡知事)

もちろんですね、災害は同時に発生する、南海トラフの話ですが、同時に起こるということはあるわけあります。当然、県民の命を守る、そして生活をしっかりと支えていくという部分は重要であります、そういった中でいろいろなやりくりが可能な部分もあると思います。やはり大きな災害が起きてきますと、広域で対応しなければ、できない部分がどうしても出てくると思います。

同じ災害が起きながらも、全ての資源を有効に活用しなければいけない。山口県の中で対応して、なお余力がある部分は、しっかりと他県のサポートに回していくということが必要であると思います。そういったことを含めて、実際に同時に起こった場合にどうするのかということなど、これから色んなことを検討しながら、具体的な対応を考えていかなければいけないと思います。そのためにも、関係県、我々で申しますと、高知・山口・島根の3県のカウンターパート同士が、しっかりと、例えば課長レベルですとか、そういった場で実務的な検討を重ねていき具体的なシミュレーションをしながらやっていくということも必要だろうと思いますし、今日話にもあったカウンターパートの県同士で、防災訓練などに連絡員を派遣するとか、そういった中で、いろいろなシミュレーションをしながら同時に起こっている場合どうするのかを含めて検討が必要になってくるかと思えます。その辺りは実務的な積み重ねをしっかりとやっていくということが、いざ起こった時に、それが円滑な対応に繋がっていくものだと思っておりますので、それをしっかりと積み上げていきたいと思っております。

(中国新聞：村田記者)

1点だけ、余力がという話がありましたけども、やはり余力を生む努力というのは当然されていかれるということなのでしょう。

(村岡知事)

そうですね。どういった災害を想定して準備をするかということをお頭に

がらやっていかなければなりません。我々は、最悪の事態が起こっても、対応できるようにするというのを、当然目指してやっていくわけでありますので、そういった中でも、どの程度のいわゆる備蓄等をやっていくかというのは、最大限の対応をできるようにということを目標におきながら考えていきたいと思っております。

(読売新聞：北川記者)

読売新聞の北川と申しますが、今回の会合につきましては両県知事においては、初めての会合になるということでも伺っていますですが、改めて今回のこの会合がどういう経緯で行われるようになったのかということと、お互いに意見を交換されての所感というものをお願いします。

(村岡知事)

この会議自体は我々の方から呼びかけをしたものであります。私自身がもともと高知に赴任していたということもありますが、同じような課題を持っている、まさに高齢化、人口減少ですね。そしてまた今回もそうですけれども、観光ですとか防災ですとかいろいろと連携できる部分は多くあると思っておりますので、是非、尾崎知事とも個人的な関係、先程言いましたように私が高知県に赴任していた際、尾崎知事の最初の予算編成をお手伝いさせていただいたという関係もありますので、そういった信頼関係をさらに深めていって、お互いの課題を連携して解決していくとか、PRでいえば、連携してよりアピールできるようなものを作っていくとか、そういったことが様々できると思っておりますので、私の方からも、尾崎知事と一緒に取組をしていただきたいというお願いをしていきたいと思っております。

今日の意見交換も、これから取り組もうとしている薩長土肥連合、山口と高知との繋がりをしっかりと活かしながら、観光を力強く進めていくということを確認しましたが、これはその関係県がしっかりとお互いが信頼をシェアって、手を取り合っていていこうという関係ができないとなかなかうまくいかないところだと思います。そういう意味では、尾崎知事との関係をこれからも大事にさせていただきながら是非連携をした取組をし、それによってその山口県の観光、高知県の観光をお互いにとって、それぞれがやるよりもプラス何倍もの効果を上げられるような取組にこれからもしていきたいと思っております。

(尾崎知事)

一言でいうと、村岡知事さんと私は大変親しい関係だと思っております、皆さんの前ですから、こういうふうに丁寧にお話をしていますけれども、二人きりだったら「やあ」とか「おお」とかという関係でありますので、この個人的な2県関係・信頼関係が、薩長土肥連合や、さらには防災関係など、いわゆる公的な、県民の皆さんのお役に立つような形の仕事に発展していることが、私は本当に嬉しいと思っております。

おります。個人的に親しくさせていただいていることが、両県の協力関係に繋がって、それが共に地方創生や防災対応力の強化ということに繋がっていくことが、非常にうれしい、有意義だと思っております。そしてこういう会議を持つことは、そういう公的な取組の強化に繋がる大きな前進だと思いますし、こういう呼びかけをしていただいたことが本当にありがたいと思います。

(毎日新聞：蓬田記者)

毎日新聞の蓬田と申します。二人にお聞きしたいんですけど、さきほど村岡知事の方からクルーズの話とかパスポートの話、尾崎知事の方からはサミットの話が出たと思いますが、今日の話し合いで二人とも、二人でそれぞれ了承されたような話だと思いますが、今後その佐賀と鹿児島の部分はどういうふうに話を進めていくのか教えていただきたい。

(村岡知事)

これは佐賀や鹿児島にも同じような話をして、是非、一緒にやろうという話しかけをしていこうと思います。また薩長土肥の取組自体は、それぞれ4つのプロジェクトチームで分担をしてやっております、それぞれにリーダーがありますので、実務的にはそういったところも落としながら具体化をしていくということになると思います。いずれにしても趣旨については両県知事もご賛同いただけると思いますので、これからそれを目指して、実務的に少し詰めるという作業も、始めていくことになるのではないかと思います。

(毎日新聞：蓬田)

そのクルーズとかサミットとか大体いつ頃開始したいというようなお考えをそれぞれお持ちでしょうか。

(尾崎知事)

サミットについては、本当に来年にやりたいです。薩長同盟150年でやり、そして大政奉還150年でやり、明治維新150年でやり、という感じで、4県で回していくことができると思います。クルーズ船については、実務的に誘致のための取組をそれぞれの県で展開しておりますが、この薩長土肥連合を組みましたので、4県連携でのクルーズなどはどうかと、それぞれ提案した次第です。さらに言えば先程申し上げたように、観光商品説明会に旅行会社の皆さんを呼び、PRしていくといったやり方があるのではと思っています。いずれにしても、この薩長土肥連合は単に知事が集まって氣勢をあげているだけではなくて、先程村岡知事が言われた

ように、しっかりと役割分担した事務局体制を持って活動しておりますので、その中で今日話したことなども、具体化に向けて詰めた話し合いをしていきたいと思っております。

(司会：上野部長)

それでは予定の時間となりましたので、これで会見を終わらせていただきます。
本日はどうもありがとうございました